

2011年12月刊行

第十二回 國華賞（二〇一二年）受賞

初唐仏教美術の研究

肥田路美 著

本書は、東アジアの仏教美術における偉大な古典的規範を築いた中国初唐時代（六一八年～八世紀初期）の仏教美術に関する総合的研究である。初唐時代に展開した仏教美術の性格と歴史的意義を、この時代を特徴づける大きな観点として、インドとの関係、王権との関係、大画面変相図の成立をその根拠とし、作品の实地調査と仏典・石刻史料などの文献資料の実証的検討を通して、多角的な視点と歴史研究の正統的な方法論で、初唐仏教美術の全体像を明らかにした労作である。



図：宝慶寺石仏

B 5 判上製函入 本文 502 頁 挿図 168 点

ISBN 978-4-8055-0677-6 C3071

本体価 30,000 円＋税

第一部では、初唐時代に活況を呈したインド世界との交流に伴う仏教美術の伝来と受容・変容の具体相やその意義を、受け手である中国側の意識に焦点を当てて論じる。

第二部では、世俗権との関係の相依性を論じる。

第三部では、初唐時代を特徴づける大画面変相図というジャンルの確立と大流行の要因を探る。

本書の特色としては、

- ①作品の实地調査と仏典・石刻史料等の文献資料の基礎的な検討を踏まえた実証的研究であること。
- ②彫刻、絵画、工芸といった作品のジャンルや現存の有無を問わず、多角的な視点と多様な方法論を駆使して初唐仏教美術の全体像を構造的に明らかにしていること。

以上の二点が特筆される。

本書は初唐時代の仏教美術を総合的かつ専門的に論じ、仏教美術研究に新しい視座と方法を提示するものであり、個々の論点をより高次の大局的視座から有機的に位置づけし直し、初唐仏教美術の全体像と本質を明らかにしたものである。日本や中国の仏教美術史研究に資するのみならず、中国史、仏教学・仏教史、東西文化交流史、日中交流史など広く学際的な研究の発展に寄与するものである。

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1

IVYビル6F

TEL 03-5577-4797 FAX 03-5577-4798

お取り扱いは

目次

緒論 初唐仏教美術の論点

第一部 初唐仏教美術とインド

序章

第一章 玄奘による釈迦像七軀の請来

第二章 西安出土磚仏の制作事情と意義

第三章 ボードガヤー金剛座真容の受容と展開

第四章 優填王像の流行と意義

終章 初唐におけるインド仏像の受容態度

第二部 初唐仏教美術と世俗権

序章

第一章 一州一寺制と皇帝等身仏像

第二章 龍門奉先寺洞窟舎那大仏の造立

第三章 則天武后の登極と宝慶寺石仏

第四章 瑞像の政治性

終章 初唐仏教美術と世俗権の相互関係

第三部 初唐仏教美術における大画面変相図

序章

第一章 大画面変相図の成立と雲のモチーフ

第二章 大画面変相図における山岳景

第三章 奈良国立博物館所蔵刺繍釈迦來說法図

第四章 梁代画家張僧繇の評価からみた唐代仏教絵画の性格

終章 初唐における大画面変相図成立の意義

結論 初唐仏教美術の性格と歴史的 position 付け

図版一覧

あとがき

索引



図：桂林西山観音峯摩崖像



図：龍門石窟奉先寺洞窟舎那大仏

【著者略歴】

肥田 路美 (ひだ ろみ)

文学博士。早稲田大学文学学術院教授。

著書に『浄瑠璃寺と南山城の寺』(保育社、1987年)、『新アジア仏教史8 中国文化としての仏教』(共著、佼成出版社、2010年)、『仏教美術から見た四川地域』(編著、雄山閣、2007年)、『中国四川唐代摩崖造像—浦江・邛崃地区調査研究報告』(共編著、重慶出版社、2006年)など。

関連書籍

アジア仏教美術論集【全12巻】

宮治昭・肥田路美・板倉聖哲 監修

各本体予価 5,800 円＋税

A5 判上製カバー装 各巻約 600 頁

◆既刊 ◇近刊

巻名	責任編集	巻名	責任編集
南アジア I (マウリヤ朝～グプタ朝)	宮治 昭・福山泰子	東アジア II (隋・唐)	肥田路美
南アジア II (ポスト・グプタ朝～パーラ朝)	立川武蔵・森 雅秀	東アジア III (五代・北宋・遼・西夏)	板倉聖哲・塚本麿充
◆中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)	宮治 昭	東アジア IV (南宋・大理・金)	板倉聖哲
◇中央アジア II (チベット)	森 雅秀	東アジア V (元・明・清)	宮崎法子・森 雅秀
東南アジア	肥塚 隆	◇東アジア VI (朝鮮半島)	井手誠之輔・朴 亨國
◆東アジア I (後漢・三国・南北朝)	濱田瑞美	東アジア VII (アジアの中の日本)	宮治 昭・肥田路美・板倉聖哲